

5 喬高建第 25 号
令和 5 年 7 月 21 日

内閣総理大臣 殿

長野県知事 阿部 守一
喬木村長 市瀬 直史

認定地域再生計画の評価結果について（報告）

平成 27 年 3 月 27 日付けで認定を受けた地域再生計画の評価結果について、下記のとおり報告します。






記

- 1 認定地域再生計画の名称
交流の輪をひろげる村づくり計画
- 2 評価区分
事後評価
- 3 評価結果
別添評価調書のとおり

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県 喬木村	地域再生計画名	交流の輪をひろげる村づくり計画
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	長野県 喬木村 高速交通対策課長 井澤 広美		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間実績		最終目標値		事後評価	達成状況	最終目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度	年度	中間実績年度	最終実績	基準年度	最終実績				
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	77人	H26	7.3万人	H29	7.8万人	R3	1.3万人	×	中間実績時には、林道整備やそれに通じる村道整備により、マイカーにより山間部の観光に訪れる人が増えてきており、目標値を概ね達成できたが、新型コロナウイルス感染症まん延による行動自粛の影響を受けてしまったため、最終目標値を達成することができなかった。	
	指標2	85ha	H26	93ha	H29	82.2ha	R3	1ha	×	林道整備やそれに通じる村道整備、林業従事者の育成などの施策を行い、中間報告時点では目標値を若干下回る実績であったが、平成30年度以降県森林整備を財源とする事業を実施したことにより、大きく目標値を下回ることになった。	
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）									
		計画	中間実績 (H29)	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	村道2号線	330m	330m	330m	観光客が村へ訪れる玄関口である村道2号線の舗装修繕を行なった。喬木村と飯田市、豊丘村を結ぶ幹線道路であり、主要地方道伊那生田飯田線のバイパス的性格を有する道路であるため、観光客の増加が期待される。						
	林道大島氏乗線	750m	150m	379m	開設に当たり、開設先線において崩落地が拡大したため、ルートの再検討が必要となった。また、平成30年度の7月豪雨災害や台風21号災害により、下方道路が被災し通行不能になるなど、進捗が遅らな状況となっているが、早期に新ルートの決定や被災箇所の早期復旧を行い、進捗の向上を図り早期完成を目指す。						
その他の事業	三遠南信自動車道建設事業	建設が進められている三遠南信自動車道との連絡効果により、乗客側はさらに観光客が訪れ交流人口の増加が期待される。									
	地域振興インテター活用	建設が進められている三遠南信自動車道との連絡効果により、乗客側はさらに観光客が訪れ交流人口の増加が期待される。									
計画外で独自に実施した事業	クラインガルテン・いちご狩り・グリーンツーリズム・レンタサイクル	クラインガルテンにおいては、利用者と地元住民との交流、NPOが行っているイベントでも交流人口の増加につながったと考えている。									
	観光スポットの有機的連携	観光スポット・場所のコース設定									
④評価方法	喬木村村評議会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。										
⑤事後評価の公表方法	喬木村のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	地域再生計画では、地方創生道整備推進交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に実施し、マイカーによる観光と交流人口の増、山間部での林業振興など効果を得てきたと考えているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、交流人口は大きく減少していった。一方、更なる山間部の森林整備により観光・交流人口を回復させるため、観光情報発信の強化等を積極的に行い、観光客の増加が期待できる段階である。										
⑦今後の方針等	交流人口については、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少してしまいが、行動制限が解除されれば、目標のほぼ達成が見込まれると想定する。一方、間伐については林業従事者の育成等ソフト対策も強化しながら、引き続き地域再生計画に沿って事業を推進する。										

村長	副村長	課長	係
			 

会議出席者名簿

会議名	日時	令和4年11月25日(金) 午後6時55分
令和4年度第1回喬木村計画審議会	会場	福祉センター多目的ホール

所属	氏名	出欠	所属	氏名	出欠
区長会長	大原 文男	○			
村議会議長	後藤 章人	○			
村議会副議長	中森 高茂	○			
村議会総務産業建設常任委員長	佐藤 文彦	○			
村議会社会文教常任委員長	小川原 美智穂	○			
教育委員	菅沼 利光	○			
教育委員	木下 守夫	○	村長	市瀬 直史	○
農業委員会会長	勝野 明人	○	副村長	村澤 明彦	○
農業委員	城田 位功	○	教育長	丸山 貢弘	○
JAみなみ信州喬木支所長	松浦 加代子	○	議会事務局長	松島 淑宜	○
喬木村商工会長	大平 敏一	○	産業振興課長	福澤 博之	○
小川耕地財産区議会議長	池田 英幸	○	高速交通対策課長	井澤 広美	○
NPO法人たかぎ理事長	原 一夫	×	企画財政課長	林田 諭	○
喬木村商工会青年部長	中島 強	○	教育委員会事務局長	木下 哲也	○
女性団体連絡協議会長	宮下 久美	○	総務課長	林 浩樹	○
社会福祉協議会長	座光寺 秀元	○	保健福祉課長	澤柳 岳史	○
元むらづくり未来委員会委員長	奥村 茂実	○	住民窓口課長	鞍馬 淳	○
3校舎番校 喬木第二小中PTA会長	忠平 昭正	○	生活環境課長	牧野 秀樹	○
飯田信用金庫喬木支店長	筒井 潤	○	企画財政課	塩澤 哲也	○

会議終了時刻 午後8時25分

会議の結果は別紙のとおりです。

令和4年11月25日

職・氏名 企画財政係長 塩澤 哲也



地方創生整備推進交付金を活用した地域再生計画の事後評価について

① 地域再生計画に記載した数値目標の実現状況

指標		基準値		中間目標値			最終目標値		
			基準年度		年度	中間実績		基準年度	最終実績
指標1	交流人口の増	7万人	H26	7.3万人	H29	7.8万人	7.9万人	R3	1.3万人
指標2	間伐面積の増	85ha	H26	93ha	H29	82.2ha	100ha	R3	1ha

○指標1 交流人口の増

新型コロナウイルス感染症の影響により、いちご狩りの休園、くりん草祭り等イベント中止のため、村内を訪れる観光客数は目標値の15%程度であった。

☆出された意見

- ・コロナ禍による制約の中で、出来る事業を精一杯取り組んだ。
- ・喬木村だけで一日観光ができるコンテンツが無く、広域的な連携が必要である。
- ・アフターコロナにおいては、団体客の誘致が難しくなっていくと思われるので、小さい単位の団体等の集客対策を検討していく必要がある。
- ・年間を通してイチゴ狩り、リンゴ狩り、村花である九輪草を見に九十九谷森林公園に、マイカーで訪れる方が多くいるので、林道及び村道の道路の整備は非常に重要である。
- ・クラインガルデン（宿泊施設付農園）10棟あるが、愛知県から訪れ地元住民と交流を図ってくれている。
- ・氏乗側で建設が進められている三遠南信自動車道との連絡効果により、更に観光者や交流人口の増が期待できる。

○指標2 間伐面積の増

県森林税を活用する事業の見直しと、県内多数から間伐の要望があることから、財源確保が出来ず、目標値を大きく下回ることになった。

☆出された意見

- ・各種作業を進めるためには、林道、作業道の整備は欠かせない。
- ・森林は急峻な場所が多く整備が大変だが、各洞口まで整備が出来れば効果はあると考える。
- ・村内の森林は、高齢級化とそれに伴う過密林分が増えているため、枯損木・倒木が多く災害のリスクが心配される。
- ・山林労働者の確保が難しく適切な整備ができていないため、森林の荒廃が進んでいる。
- ・県の森林税や国の譲与税の他、補助事業を有効活用し間伐を実施してほしい。
- ・台風等による被害が発生しているため、間伐を中心に森林整備を進め、山の保水力を上げることにより防災、減災の面でも重要な役割を担っていくのではないかと。

○その他

- ・基幹林道大島氏乗線は、観光面からも早期の開通をお願いしたい。
- ・南信州観光公社や信南交通及び他の町村と連携しながら、交流人口増を期待したい。